

過去を見つめて

読谷中学校 二年八組 仲田 真緒

「過去を見つめ、未来に活かす。私は、この言葉を大切にしています。私たちの住む読谷の歴史を知り、未来につなぐためです。今年、七十七回目の慰霊の日、強い日差しが照りつける厳しい暑さとなりました。そんな中、平和式典が粛々と進んでいきました。私は、今年も慰霊の日に平和を祈りました。慰霊の日、平和を守り続ける決意の日になりました。ければならないと思っています。

今、私は、毎日を楽しく過ごしています。勉強も部活動も全力で頑張ります。夢を実現するために努力する毎日を送っています。でも、そんな風に過ごさうになつたのは、実は中学生になりました。からのことです。戦争の恐ろしさを知り、今の私たちの生活が当たり前ではないことに気づいたからです。中学一年生のときの平和学習で、戦争の恐ろしさとともに夢をもつこともできず、はきっている靴の方

が辛いと感じる時代があった。たこを知らたの  
です。

平和学習では、私たちの読谷中学校のすぐ  
近くにある「不戦宣言の碑」へ行きました。  
二度と戦争を起こさない、起こさせないこと  
が記されています。読谷村には、他にも「  
読谷飛行場返還の碑」や「憲法九条の碑」な  
どが建てられています。これらの場所に立っ  
たとき、私は戦争はしないという読谷村民  
の固い決意を受け取り、下気がします。平和な

世の中を守っていくために大切にしなければ  
ならない場所だと思いました。  
また、千七千りがマの「集団自決」のこと  
も学びました。がマに避難していた一四〇名  
の内、ハ十三名の方が命を落としたそうです。  
私かもし、戦時中の千七千りがマと同じ状況  
に置かれていたとしたら、生きることを選べ  
なかつたかもしれませんが、周りで人が七くな  
っていく、食事もままならない、生きる希望  
をもてない、怖さしかない。そんな生きてい

るこのの方が辛い状況では、とても生きることを選ぶことはできません。今の私の生活も真逆です。生きることをの方が辛いような戦争はもう二度と起こしてはいけません。生きることに希望をもてる平和な世の中を守り続けなければなりません。そのためには、戦争をしない」という固い決意を忘れてはいけません。と感じました。

読谷中学校には、ピーススタという字校行事があります。夏の時を超えという

曲を歌いました。「昔の話をきいたのさ」で始まるこの歌は、大事な家族の胸の中に消えない戦争の記憶があることをうたっています。私につながる命の少し前に、戦争を体験した人たちがいます。戦争は、あんな遠い昔のことではありませんでした。私は、戦争の辛い痛みを忘れてはいけなと思います。そして、「命どっ宝」の言葉こそ忘れてはいけません。と思います。

私は、生きることを戦争で奪われたくあ

リません。明日から先の未来を自分なりに精一杯生きていきたいと思います。

「過去を見つめ、未来に活かす。私は、これからも、足元の歴史を知り、未来につないでいきたいと思えます。」

Blank grid area for handwriting practice.